



道徳の授業「信頼貯金」

児童支援専任教諭 大門 貴之

「信頼」を「貯金」に例えて、「信頼貯金」という授業をしました。

今の5年生と6年生は以前担任したので、道徳の授業として「信頼貯金」を行いました。

他者からの信頼を得るには、信頼を積み重ねていくしかありません。

一度信頼されたからといって、「あの人は信頼できる」とはなりません。

「あの人は信頼できる」という事実を何度も積み重ねることで、「あの人は信頼できる」となります。

その信頼の積み重ねを貯金に例えた授業です。

授業の中では、「どのような時に信頼貯金がたまるのか」「どのような人が信頼貯金が多くてみんなから信頼されるのか」について扱いました。

信頼貯金がたまる行動として、「人より先にあいさつする」「一人の子がいたら、声をかける」「落ちていたものがあつたらすぐ拾う」「困っている子がいたら助ける」「発言する子がいるときには、静かにする」などが子ども達から出ました。そして、授業を通して、

**信頼貯金が多く信頼される人
＝みんなのために行動できる人**

であることに子どもたちは気づきました。

このような行動を「利他の行動」と呼ぶことを教えました。

さらに、このような行動を科学的に研究したものを紹介しました。

「『情けは人の為ならず』は本当か」(大阪大学)の研究で、次の結果が得られました。

**親切な行動をした子には、親切
が12倍になって返ってくる。**

授業の中で多くの子が2倍と予想していたので、子どもたちは12倍に驚いていました。

その後、学級では信頼貯金が合言葉になり、利他の行動がどんどん増えていきました。

信頼貯金がたまるようなみんなのためになる行動は、自分も周りも幸せにします。